

会 議 録

会議の名称	平成24年度第3回川越市事業評価外部会議
開催日時	平成24年11月22日(木) 18時00分 開会 ・ 21時10分 閉会
開催場所	市役所7A会議室
議長氏名	石川 久(淑徳大学教授)【評価人リーダー】
出席者氏名	<p>【外部評価人】 別添名簿のとおり</p> <p>【農政課(農業ふれあいセンター)(1事業目)】 後藤 泰治(産業観光部参事兼農政課長) 山田 秀行(農業ふれあいセンター所長)、筒井 隆行(主任) 新井 浩(統括補助作業員兼業務員)</p> <p>【河川課(2事業目)】 西島 進(課長)、畑 吉一(副課長)、桜井 直(主任)</p>
欠席者氏名	なし
事務局職員氏名	<p>横田 隆(政策財政部副部長兼行政改革推進課長) 山田 幹夫(行政改革推進課副課長) 佐々木 亮(行政改革推進課主事)</p>
会議次第	<p>1 開 会 2 あいさつ 3 外部評価人紹介 4 会議の説明・注意事項等 5 議 事 (1) 1事業目の外部評価 (2) 2事業目の外部評価 6 閉 会</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議の基本資料 【資料1】 ・ 事業資料(5. 農業ふれあいセンター運営管理事業) 【資料2】 ・ 事業資料(6. 河川環境整備) 【資料3】 ・ (参考) 事務事業評価シートの見方 【資料4】

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
<p>評価人リーダー</p> <p>評価人リーダー</p> <p>外部評価人</p>	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ（横田政策財政部副部長）</p> <p>3 外部評価人紹介</p> <p>4 会議の説明・注意事項等</p> <p>5 議 事</p> <p>(1) 1 事業目の外部評価</p> <p>【対象事業：「農業ふれあいセンター運営管理事業」（産業観光部 農政課）】</p> <p>それでは、評価を開始いたします。始めに申し上げますが、この外部評価といいますのは、いわゆる事業仕分けとは違いまして、その事業が良いとか悪いとか、そういった判断をするものではございません。それぞれの担当が評価している内容が適切かどうかということを外の目で見るといふ趣旨のものでございます。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>では、早速ですが、事業の概要について 10 分から 15 分程度でご説明いただきたいと思います。</p> <p>①事業概要の説明</p> <p>— 事業概要について説明（農政課長） —</p> <p>②質疑応答・議論</p> <p>それでは、只今の説明を受けまして、評価人の方から質問等ありましたらお願いします。</p> <p>最初に、私の方から何点か質問させていただきます。まず、この事業は一般市民向けの事業と、それから営農者、農業従事者を対象とした事業ということで二本立てになっているかと思いますが、事業内容や予算の比率を教えてくださいませんか。</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
農業ふれあいセンター所長	<p>農業ふれあいセンターの事業につきましては、一般市民向け事業と農業関係者向け事業がありまして、添付資料に3年間の事業費が載っております。事業費につきましては、実は修繕料、光熱水費、委託料など、施設の維持管理に係るものが大半でして、一般市民対象事業用と農業関係者対象事業用とで分けられるものではございません。事業内容の比率を大体で申しますと8対2、あるいは9対1ぐらいで、一般市民向け事業の割合が大変多くなっているという状況です。</p>
外部評価人	<p>センター運営管理事業ということですから、事業はセンターを使ったものということになってくるかと思うんですけども、主なものとして貸館事業が非常に好評であるということですが、これは農業との関係というものはどうなっているのでしょうか。完全に一般市民向けに限られているのでしょうか。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>そちらにつきましては、実は農業ふれあいセンターの設置の目的にもなるのですが、農業ふれあいセンターの施設の構想段階におきまして、昭和57年頃、今から30年前になりますが、この年は川越市制60周年の年でして、各種行事やスポーツ、文化関連施設について議論が集中しておりました。そのような中で、農業センター建設委員会を設置して検討がなされ、その中で単なる農業研修施設でなく、都市と農村の交流拠点となるような施設整備をすべきであるとの方針が打ち出されまして、その方針の下に事業推進に至ったため、農業とは直接関係のない施設も建設されたという経緯がございます。そのような施設が入ったことによって、農業施設でありながら一般市民向けの施設にもなったということがございます。先ほどの説明にもありましたが、農業ふれあいセンターの設置条例の中にも、センターの業務として貸館業務と農業関連業務の両方が位置づけられております。</p>
外部評価人	<p>先ほどのお話の中で、施設の維持管理費用が非常に大きいということでもございましたけれども、これが農業ふれあい事業といったことにどれだけ活用されているのかなという印象を少々持ちました。</p> <p>それから、他の自治体についてもインターネットで少し調べてみたんですけども、一般市民の農業に対する、あるいはガーデニングとか園芸とか、関連した様々な事柄に対する関心が非常に高くなってきていると思うんですね。ですから、そうしたこともいろいろ行っている自治体が増えてきていると思います。会館を使っての事業ということで、いろいろと制約</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
<p>農業ふれあいセンター所長</p>	<p>があるかと思うんですが、市民向けが 8 割ということで圧倒的に多いわけです。開館を利用して市民向けの農業ふれあいということがもう少しいろいろあると、本来の事業目的に適ってくるのかなという印象は強く持ちました。</p> <p>それから、鴨田ふれあい農園という市民農園をやっているというところでしたが、これが評価シートのどういうところに事業の成果なりそうしたものが表れているのか教えてください。</p> <p>まず先ほどの、もっと市民ニーズに対応したこともやってみてはということについてですが、それはご指摘のとおりだと私も思っております。しかしながら現在、職員 4 名という配置と、予算も年々削減されてきていることから、なかなか難しい部分もございまして、出来るところからやっていきたいと考えているところです。</p> <p>鴨田ふれあい農園の業務についてですが、まず農園の詳細についてお話しいたします。市民農園の詳細についてですが、市民農園は平成 9 年度に 100 区画という区画で開始し、現在では 340 区画となっております。1 区画は 5×6m の 30 m²で、年間 6,000 円の使用料となっております。当初は 1 年ごとに貸しておりましたが、作物を作るのにもう少し長い期間借りたいという利用者の要望を受けまして、平成 22 年度からは 2 年の期間で貸し出しております。2 年に 1 回募集しておりますが、大きな PR をしていないのにも関わらず、全ての区画が埋まるような状況になっております。こちらの市民農園に関する指標がないというご指摘でしたが、市民農園に関しましてはまず一点、例えば利用区画がどれだけ増えていったかという指標を取ることも可能かと思うのですが、区画が 50 とか 70 とか何年かでいっぺんに増えますので、指標の設定期間が 4 年間だとしますと、4 年間ずっと例えば 310 という数字が並ぶだけで変化がないように見えてしまい、指標の中身が見えないということがありまして、当時、指標が設定されなかったと考えています。また、市民農園への来訪者の人数なども指標として取ればいいのですが、340 区画ございますので、来たか来ないかというのをまさか毎日そこに立ってチェックするわけにもいきませんので。なお、以前一度ノートを用意しまして、来たらチェックするようお願いしていた時期もあったようなんですが、多くの方は農作業してそのまま帰ってしまうため、正確な数字が把握できませんでした。そういったことから、市民農園についての指標はこちらの評価シートには載らなかったという形になっております。</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
外部評価人	その利用料が一年間で6,000円ということでしたね。それが340区画ということですが、それは特定財源の中に含まれるということですか。
農業ふれあいセンター所長	こちらに関しましては、市の事業としてやっている事業なんですけど、市で借りているという形でして、地主さんがいます。地主さんの組合と共同でやっているということになりまして、利用料はその組合の方に入る形になっています。
外部評価人	ではこの評価シートの中には入っていないということですね。
農業ふれあいセンター所長	はい、そういうことになります。
外部評価人	わかりました。市民向けという点に関しては以上ですが、農業関係者向け事業ということで、先ほど日本全国で260万の農業人口があるというご説明でしたが、川越市の農業人口はどの程度なんですか。
農政課長	統計の関係で、数字が若干前のものになりますが、平成22年度で申し上げますと、川越市の農業就業人口につきましては3,819人でございます。参考に申し上げますと、その10年前の平成12年前は5,719人ということでしたので、10年間で1,900人減少したということになります。
外部評価人	高齢化と共に農業従事者数がどんどん減ってきているという現状が見えてきたと思いますけれども、そうした農業の保護について、後継者育成などいろいろ事業をやってらっしゃると思いますが、従事者育成、後継者育成、農業の保護ということに関して一番重点的に行っている事業はどういったものでしょうか。
農政課長	先生の方からお話ございました後継者育成の事業につきましては、全国的な傾向でございますけれども、川越市にとっても重要な課題だと認識しております。しかし、なかなか事業としては上手くいっていないのが現状です。その中で行っている事業としましては、後継者の方々に集まっていただいて情報交換会を行ったり、或いは相談会を行ったり、または生産した野菜等の販路開拓のお手伝いをさせていただくですとか、そういったようなものがございます。また、川越市だけではございませんけれども、近隣の市や農協、あるいは県の農林振興センターと連携しまして、県が仕

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
外部評価人	<p>掛けていますけれども「明日の農業担い手育成塾」というものがありまして、川越市でも農業従事者、新規参入者、あるいは後継者の方の育成のための研修や相談、あるいは実践的な農業における指導等を行っております。</p>
外部評価人	<p>今も言葉が出ましたが、農業関係者の研修の機会があるとのことですが、研修の内容とはどういったものになりますか。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>本日の事業評価は農業ふれあいセンターの事業評価となっておりますので、まず農業ふれあいセンターの方の事業について説明させていただきます。農業関係者の研修につきましては、センター主催のものは現在、市民農業大学のみとなっております。先ほども申し上げましたが、こちらに関しましては今後充実させていかなければならないと考えているところです。しかしながら、センターを利用する研修会につきましては、農政課で所管する各種農業団体の研修会や会議が数多く開かれているほか、農業委員さんが集まる農業委員会の会議なども年 35 回ほど開催されております。また農協をはじめ農業団体の研修会等も開催されており、市の農業拠点施設としての役割は果たしているのではと考えております。</p>
外部評価人	<p>いま伺いまして、やはり市民向け：農業者向けが 8：2 という状況が見えてきたかなという感じがします。それから、今度はシートの方でございしますが、利用者数が 23 年度で 43,371 人ですね、そして農業ふれあいセンター施設利用者数が 33,505 人となっていますけれども、これは重複しているのでしょうか。それとも別のものなのでしょうか。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>こちらについてですが、添付資料の 20 年度から 23 年度までの利用状況一覧表の一番下の合計数が、「利用者数」の指標の値になります。対しまして「農業ふれあいセンター施設利用者数」の指標ですが、こちらについては有料で施設のホールですとか会議室を借りてくれた方の人数になるのですが、こちらは利用状況一覧表のちょうど上の部分「研修室兼視聴覚室」から「館内計」までの合計値になります。ということで、「利用者数」の指標に「農業ふれあいセンター施設利用者数」は含まれている形になります。</p>
外部評価人	<p>わかりました。そうしますと、それぞれ 43,000 人と 33,000 人ということなので、差し引き 10000 人くらいですか、あと残りの「体験農業利用者数」と「農業祭来場者数」を除いて 7,000 人くらいですが、こちらはどう</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
農業ふれあいセンター所長	<p>いう利用者になるのでしょうか。</p> <p>主なものは、緑地広場といいまして、センターの近く、伊佐沼の脇に大きな広場がございます。こちらの広場はグランドゴルフやゲートボールに使われていまして、こちらの利用者数についても指標の「利用者数」に入っております。</p>
外部評価人	<p>今日ご説明をいただいているいろいろ疑問が浮かんだのですが、事務事業評価シートの目的のところ、「市民が農業体験を通じて農業に対する理解を深めるとともに」というところは市民向けの部分として理解したところですが、今一度確認なんですけれども、その部分と後段の農業関係者向けの部分が、全体的な比率でおよそ 8 対 2 となっているという理解でよろしいでしょうか。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>そのような理解で間違いありません。</p>
外部評価人	<p>ありがとうございます。続きまして、「市民農園」というのはどういうものなのか教えてください。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>市民農園につきましては、センターの北側に 30 平米の土地を 340 区画設けたところがございます。基本的には市内在住の方なんですけれども、自分で作物を作りたいという方を募集いたしまして、こちらで作物を育てていただくというような位置付けのものになります。</p>
外部評価人	<p>ありがとうございます。ということは、市民の方の趣味的な利用ということでしょうか。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>今のところそういった面が多くなっております。</p>
外部評価人	<p>指標をお示しいただいているんですけれども、先ほどご説明がありましたが、市民農園については区画の関係でなかなか指標として設定しにくいということでした。一方で、添付資料で「今後市民農園等の需要は増えていく」とあります。この評価シートには出ていませんが、細施策の内訳の中に「利用者のニーズに応じた市民農園の設置を促進します」とあります。</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
農業ふれあいセンター所長	<p>こちらに関してはどこか別の部署でやられているということですか。</p> <p>市営の市民農園、センターで所管する市民農園につきましてはこちらのセンターで管理していますが、その他に民間の市民農園もございます。こちらの方の管理は農政課の方でやっております。</p>
外部評価人	<p>そうしますと、指標が安定しないにしても、需要にどれだけ応えられているかというものを追いかけていかないと、どれだけそれに対して対応しているかという成果につながらなくて、何をどうしているのかが見えないのではないかな、と感じます。それから、同じく指標の件ですが、この数字だけを見ると利用が激減している印象を受けますので、何か説明できるものがあつた方が良くないかと思います。また、20年度に10万人という目標値を設定した段階で先程のダブルカウントを考慮していたとするならば、目標値を修正しないと間違つた解釈を招くことになるかと思いますがいかがでしょうか。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>それについては、おっしゃるとおりだと思っております。先ほどの指標の件ですけれども、この評価シートには農業に関する指標が全く入っておりませんでしたので、他の評価人の先生方からもご指摘を受けるかとは思いますが、入れるべきであつたと感じております。</p> <p>次に、指標の数値が大きく減っている件と10万人計画の件ですが、川越市としてはこの10万人という数字は膨れ上がった数値で出していたところもあると思っておりますので、今後見直す必要があると感じているところです。</p>
外部評価人	<p>ありがとうございます。それから指標のことで他にも申し上げますと、市民農園を中心にその需要に応じていくというのは、単純に市民農園の場所が増えていけばいいわけですよ。それに対してこの農業ふれあいセンターという建物の位置付け、センターの役割はどういったことになるのでしょうか。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>センターが所管する市民農園に関しましては、センターの近くにまだ農地が余っているのでそれを借用して増やしていくこととなります。</p>
外部評価人	<p>センターの建物は何に関わってくるのでしょうか。建物を維持管理している目的と言いますか…</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
農業ふれあいセンター所長	<p>センターの建物自体にはクラブハウスのような役割がありまして、シャワー室など、そういったものを整備しております。その他に農作物を育てるのに土の pH をはかる機械ですとか、そういったものを市民農園の利用者に貸し出したりとかをしております。それと、月に一回なんですけど、「営農相談員」ということで、農業の専門家の方を呼びまして、市民農園で初めて農業に携わる方もいらっしゃいますので、そういった方への指導などもしております。</p>
外部評価人	<p>ありがとうございました。それから細かいことで恐縮ですが、利用者数など活動指標が設定されていますが、多目的ホールの団体利用者数が 20 年度で 22,134 名ですね。23 年度で 17,112 名ということで 5,000 人くらい減っていますが、これは何か理由があるのでしょうか。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>こちらの数値につきましては、実は平成 16 年度、多目的ホールは 649 団体 18,858 人の利用がございました。平成 17 年 12 月に、この市役所の隣に市民体育館というものがあつたんですが、こちらが利用できなくなりまして、その時にそちらの方で卓球などのスポーツをしていた方が農業ふれあいセンターを利用するようになりました。そのため、20 年度前後は利用団体が最も増えた時期になります。その後他の施設も増えてきたこともあり、20 年度からの利用者は減ってきていますけれども、逆に 20 年度前後が一時的に増えた数字ということになります。また、22 年度、23 年度に関しましては東日本大震災の影響もあり、3 月から 4 月にかけて多目的ホールの貸し出しが出来ませんでしたので、そのことも考慮しますと、長いスパンで見ますと数字の方は若干増えてきていると感じているところです。</p>
外部評価人	<p>ありがとうございます。ではその件に関してもう一つだけ質問させていただきます。事業目的に「市民が農業体験を通じて」とあり、題名がふれあいセンターですが、この多目的ホールでこれだけの人数がくるということですが、この人たちはどういう人たちですか。といいますか、センターとしてどういう役割の下にこういった人たちが利用されているんですか。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>どのような利用形態で利用されているかというご質問ですが、多目的ホールにつきましては、体育館ではないのでバレーボールとかバスケットボールとかそういった大がかりなスポーツは出来ないのですが、卓球とかバ</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
外部評価人	<p>ドミントンなどの運動はできまして、中でも高齢者が卓球をやられるのが一番多いです。</p> <p>ありがとうございます。ということは体育館と同じ扱いということでしょうか。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>はい。</p>
外部評価人	<p>事業の目的が「市民が農業体験を通じて農業に対する理解を深める」ということで、鴨田ふれあい農園に関しては目的に合致しているのかなという感じを受けますが、川越青年会議所でも農業ふれあいセンターは何度も事業で使わせていただいている非常にいい施設だと思うんですけど、こういった目的であるという認識もなかったですし、ちょっと目的から離れてしまっている現状があるのかなと思います。今後もこの目的でもってこの農業ふれあいセンター運営管理事業という形で行っていくのであれば、現在はあまりそういったイメージでないこの施設についても、農とのふれあいという形で使っていく必要があるのかなと思うんですけども、そのための戦略が何かありましたら教えてください。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>おっしゃるとおりで、今のところ「農」の部分が少なくなってしまうので、一つとしては、来年度から少量多品種の栽培についての講習会を企画・実施してみようと考えております。その他にも、出来ればさいたま市でやっているような援農ボランティアに関しましても、すぐにといいわけにはいかないかもしれませんが、こちらは農地を持っておりますので、通常、講習とかは会議の会場でやりますけれども、農業の講習はやはり畑がないと出来ませんから、こちらのセンターはそういったことができる唯一の施設だと思っております。そのため、こういったことについても今後検討していきたいと考えています。</p>
外部評価人	<p>そうすると、直接この施設を活かすというよりも、基礎的な部分でやっていくということですね。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>こちらの農業ふれあいセンターにつきましては、条例で定められた使い方の中に、当然一つには農業の関係に使うというのがありますけれども、貸館業務もこちらに位置付けられていますので、農業関係にしか使わない</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
外部評価人	<p>という形は考えておりません。</p> <p>もう一つ、農業者の営農サポートというのは、実際にこの施設の中の中の部分をどういう風に利用して行っていくのか、その辺についてはどのような考え方をされているのかお伺いしたいと思います。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>こちらにつきましては、いま現在は市民農業大学ですとか体験農園に来られた方の相談に乗ったりですとか、そういったことが農業ふれあいセンターの営農サポートになっているんですけども、こちらに関してはちょっと取り組みが弱いというのは認識しております。</p>
外部評価人	<p>私は少し違う立場から質問をしたいと思います。評価シートの「第三次川越市総合計画後期基本計画における位置付け」のなかで、方向性として「地域経済の活性化と産業振興」、施策として「農業の振興」というのがポイントになっているわけですね。農業側に立って見たとき、この農業ふれあいセンターの位置付けはどうなんでしょうか。果たして役に立っているのかどうかというのが非常に疑問です。それで、成果指標のところになるんですが、これは「活動指標を中心に評価する」として「利用者数」「体験農業利用者数」「農業祭来場者数」「農業ふれあいセンター施設利用者数」といった活動指標が挙げられています。市民の農業体験を通じて農業に対する理解を深める、或いは研修の場を提供するということが事業の目的なのに、指標については単に利用者だけということで、農業の振興には何ら関係ない指標なんですよね。農業の振興ということであれば、やはり新規就農者がこれによって、例えば市民農園の中から農業に興味を持って新規で就農した人がいまだとか、農業祭を開いてその出展者が増えてきて来場者と触れ合うことが多くなり、その場で市民のニーズを知ることができたとか、そういった成果が必要だと考えます。これは活動指標ですから、やってきた活動は果たして本来の目的と合致していたかどうか、この辺のことについてどのように考えているかお伺いしたいと思います。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>ご指摘のとおりだと思っております。私どもとしても、市民向け視点としての指標だけでなく、農業振興の施策の指標も入れるべきだったと考えております。昔、この事業の評価指標を決定する時に、現状、農業ふれあいセンターの事業が市民向け事業と農業者向け事業とで8対2あるいは9対1程度であったということもあって、市民向け事業がほとんどだったことから、利用者等が数字として分かりやすいということで当時はこちらの</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
外部評価人	<p>指標を設定したのではないかと想像しているところではあるんですが、正しい現状把握のためにも、今回指標を変更する必要があったと感じております。</p> <p>ありがとうございます。それと、先ほどセンターの利用ということで、利用者数の中に実質的には体育館代わりに利用しているといったお話がありましたけれども、そういった意味でいったら、本来的な用途で利用した方の数字でチェックすべきであって、このようなレクリエーション利用などの数字は除外して考えるべきではないのかなと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>先ほども申し上げさせていただきましたけれども、確かに農業振興に関する指標がなかったということは、状況を把握する上で足りていなかったと思うのですが、こちらの施設に関しましてはもともと二つの目的がございます、一つは事業目的の中に農業の振興と、それから業務の中に貸館、施設を貸すという二つの目的があります。センターの多目的ホールを始め、各室を貸して市民の方々に利用していただくというのも一つの目的として掲げられておりますし、事業としても位置付けられておりますので、こちらを排除するというと、また片手落ちになってしまうのかなと感じております。</p>
外部評価人	<p>あと、この農業ふれあいセンターの事業として、先ほど農業体験の市民農園については市民の趣味的なものに留まってしまっているというお話もありましたけれども、市民農園については民間でやっている方もいらっしゃるわけですね。どちらかという自治体の方でやっている方のほうが多いのではと思いますが、この辺のところをですね、徐々に民間へ移管していくといったようなお考えはありますでしょうか。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>そちらに関しましても、今後検討はしてまいりたいと考えております。</p>
外部評価人	<p>では私からは最後ですが、今後の方向性のところで「少量多品種栽培講習会」とありますが、どういったところを対象とした事業なのでしょう。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>この少量多品種栽培講習会は、少量でも付加価値の高い農作物をすることによって利益が挙げられるのではないかと考え、企画したものです。対</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
外部評価人	<p>象といたしましては、市内の農産物直売所に作物を出荷している方、また農作物の個人販売所を持っている方もいらっしゃいますし、朝市に作物を出している方などもいらっしゃいます。そのような方に加えて市民農園にいられている方なども対象として想定はしておりますが、こちらに関しましては、広報等で市民に呼び掛けたいと思っています。</p> <p>そういった事業というのは本来市でやるような事業なんですか。地域の農業振興センターなんかもありますよね、そういったところとの棲み分けはないんですか。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>それに関しましても、農業振興センターはじめそういった部分との協力関係も築きながらやっていきたいと考えております。また、当然この講習会をするにあたって、講師等については県の振興センターにあたって相談するという形を考えております。</p>
外部評価人	<p>つまり、連携してやっていくということですね。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>はい。</p>
外部評価人	<p>私はこういったテーマについてはあまり存じ上げませんのでごく基本的な質問になってしまいますが、ふれあい農園と体験農園とは何が違うのでしょうか。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>ふれあい農園と体験農園の違いについてですが、ふれあい農園とは、市民に1区画30㎡の農園を貸し与えて作物を自由に作っていただくものです。一方、体験農園とは、農業ふれあいセンターの農地で、市民の方々に田植えや稲刈り、芋掘りなどを体験してもらうものです。ふれあい農園については団塊の世代の方の需要が高く、体験農園に関しては親子連れの利用が多いという状況になっております。</p>
外部評価人	<p>ありがとうございます。それでは続きまして、評価シート内のコストの部分の「その他特定財源」について、20年度から21年度にかけて大きく減少している理由は、市民体育館の廃止に伴って一時的に利用が増えていたためだと思いますが、それ以降毎年およそ370万円となっておりますけれども、その内容を教えてください。</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
農業ふれあいセンター所長	「その他特定財源」は農業ふれあいセンターの歳入でして、センターの運営管理に充当されている財源です。一つは、ホールや会議室を貸し出したときに入る農業ふれあいセンター使用料で、もう一つは農産物直売所の施設貸出しや館内に置いてある自販機の設置によって入ってくる行政財産使用料。その2点が「その他特定財源」の中身になります。
外部評価人	そうしますと、基本的には内部の売上等によるものと考えてよろしいでしょうか。
農業ふれあいセンター所長	はい。
外部評価人	わかりました。では次なんですが、この多目的ホールについて、先ほどのお話では貸館業務は概ね好評ということでしたが、多目的ホールの稼働率といいますか、年間でどのくらい埋まっているのかが分かるデータがありましたら教えてください。
農業ふれあいセンター所長	現在、数値として持つてはならず申し訳ありませんが、ほぼ8割から9割となっているはずです。ほとんど毎日朝・昼は埋まっていて、夜は若干空いていますが、そのくらいの高い稼働率となっています。
外部評価人	評価シート内5-(1)「現在の課題と状況」のなかで「農業者の営農をサポートするような事業」とありますが、具体的にこういったことをしているというイメージがありましたら教えてください。
農業ふれあいセンター所長	先ほどもお話しさせていただきましたが、現在のところは少量多品種栽培講習会ですとか、就農サポーターの育成などを企画していきたいと考えております。
外部評価人	ありがとうございます。続いて「事業の目的」のところに戻りますが、市民の農業に対する理解の深化と農業関係者の資質の向上という2つの目的が掲げられていますが、この目的は2つとも今後も維持するというところでよろしいでしょうか。
農業ふれあい	そのように考えています。

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
センター所長	
外部評価人	<p>では最後に一点、非常に根本的な話になってしまって申し訳ないんですが、川越市においては、農業の振興というものは確実に市の事業であるというように理解してよろしいでしょうか。</p>
農政課長	<p>農業につきましては川越市の重要な産業であると認識しておりますので、今後につきましても、振興していく方向で努力していきたいと考えております。</p>
評価人リーダー	<p>はい。評価人の質問が一巡しましたが、他にぜひこれを聞いておきたい、ということがある方はお願いします。</p>
外部評価人	<p>先ほど、市民向けと農業関係者向けの事業の割合について伺いましたのは、事業の目的が市民の農業とのふれあいと農業関係者の育成と伺ったためです、その結果が8:2ということで伺ったんですけれども、その後ずっとお話を聞いていまして、少し厳しい言い方かもしれませんが、貸館事業が中心になっていて6割~7割程度、その他の一般市民向け事業が2.5割程度で営農者向けが0.5割程度くらいなのかな、と。非常に雑駁な感想なんですけれども、看板倒れなのかなという印象を非常に強く持ちました。</p> <p>そうしますと、恐らくこれを是正していく必要性は感じていらっしゃると思うのですが、改めて伺いますけれども、どのくらいの比率でこれらの事業をやっていきたいとお考えなのか。貸館事業も含めて、です。</p> <p>それともう一つ、この「農業ふれあい」というのは、お祭りなどの特別なイベントを中心としたものですよね。そして、それは日常的に行われるものではないということですよ。日常的には貸館業務が中心であるということだと、4人の専任職員が果たして必要なんだろうかという感じも強く受けます。その辺についてもお考えを伺いたしたいと思います。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>一点目の事業の割合に関しましては、私の個人的な意見になってしまいましたが、私もこちらに来て半年になるんですけれども、農業に関する事業が少ないなと感じているところです。ただ、利用者数として出している数字は確かに貸館の人数が多くを占めるのですが、先ほど申しました市民農園に関しましては、340区画ございますので毎日カウントすることは出来ないんですけれども、畑仕事というのは一ヶ月も放置していたらダメなもの</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>ですから、ほどんどの方が週に 1 回か 2 回は来られます。340 区画に週 1 回ずつ人が来れば年間で 18,000 人程度と大きな数字になりますので、そういったことも踏まえて考えますと、農業に関することも半分とまではいかないかもしれませんが、ある程度はあるのかなと思っています。私がいま感じていますのは、貸館業務に関する利用者の割合が 5 割であって、3 割程度は農業関係者向けであるべきかなといったところです。</p> <p>続いて二点目、センターの職員に関してのご質問です。農業ふれあいセンターの職員は、所長 1 名、事務職員 1 名、週 4 日勤務の再任用職員 1 名、農園を管理している業務員 1 名の合計 4 名となっております。運営についてですが、休館日は月曜日のみで、土曜、日曜、祝日も開館しています。祝日がお休みの公民館と比べても、一年間の開館日は多くなっております。現在、土日に関しては職員 2 名体制で運営しております。休みに関しては、土曜・月曜・日曜・月曜が隔週で休みになっておりまして、当然、業務員の者は農園全体を管理しておりますので、その者が外に出してしまうと、土日は実質職員 1 名となってしまいうような状況です。平日につきましても、実は休日に出た分の振替休暇があります。例えば、先週はセンター祭りということで農業祭がありました。こちらに関しては全員出席でした。こういったイベントの振替休暇もそれぞれとっていきますと、この 4 人の職員が全員そろう日は月に 4、5 日しかないというような状況です。そのため、もし職員が 3 人に減員などとなりますと回らなくなってしまいます。ちなみに開館時は 5 人の職員がいたのですが人数が減って、さらに 1 名は週 4 日勤務の再任用職員です。農園の管理もありますので、これ以上の減員は難しいかなと考えています。ただ、臨時職員ということでしたら検討の余地はあるかなと思います。</p>
評価人リーダー	<p>他に質問はありますか。よろしいでしょうか。</p> <p>では私から一つ質問しますが、職員の方は大変だというお話を只今されました。そこで、運営形態の変更については検討しているのでしょうか。</p>
農業ふれあいセンター所長	<p>運営形態につきまして、指定管理等の検討は行っております。ただ、当施設におきましては貸館業務だけでなく、市民農園・体験農園などの管理も行っており、農作業が発生します。従って、指定管理を受ける団体につきましても、農作業ができる団体である必要がありますので、かなり限られてくると考えております。隣のさいたま市に問い合わせたところ、同様の施設で、農作業を含む施設の指定管理は難しい状況にあるというお話でした。また、当施設は開館から 23 年ほど経っており、施設の老朽化が進ん</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
評価人リーダー	<p>でおり、外から見るとまだ立派な施設に見えるのですが、多くの修繕が必要な状況になっております。あちらこちらで雨漏りが起きていたりして、手入れにコストがかかるという状況です。もし指定管理に出すとなると、こちらの手入れも必要になってきます。ただ、コストの削減は重要な問題であると認識しておりますので、今後も指定管理の導入に関しては検討してまいりたいと考えております。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、各評価人の皆様におかれましては、まず先に採点シートの方にご記入いただきたいと思っております。採点が終わりましたら、続いて意見シートの方にご記入をお願いいたします。</p>
評価人リーダー	<p>③採点シート記入・評価結果発表</p> <p>これから、各評価人から採点と意見シートの方の発表をしていただきます。それぞれの項目について逐一述べるということではなくて、全体的な傾向をお話しいただければと思っております。</p> <p>それでは、最初の評価人の方からお願いします。</p>
外部評価人	<p>はい。私が一番低い点数を付けたことになりましたが、私、実は農業生産法人の経営に携わっておりますので、農業側の立場から見させていただきました。そういったことから、採点が辛くなってしまったかなと思っております。</p> <p>農業ふれあいセンター自体はクラブハウスの存在であるということでしたが、そういう意味ですと、体育館とは違うので、存在意義がはっきり言っていないのではないかと判断しています。あと、農業振興について考えた場合、やはり後継者問題ですとか、新規就農者を多く集めることに関する問題点の把握が少し欠けているのではと思っておりました。以上です。</p>
評価人リーダー	<p>ありがとうございました。それでは次の評価人の方、お願いします。</p>
外部評価人	<p>はい。私は合計 15 点とさせていただきました。全体として、目的に対しての指標と、その分析に混乱があるように見られました。市民向けが中心で 8 : 2 程度の割合ということで、そちらを指標で測っているのにもかかわらず、最後は営農者に対してどうだというような話になっています。じゃあそういったことを実際にやっているのかなと、営農者に対して何か出来</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
評価人リーダー	<p>るのかな、と。私は、農業をされている方はプロだと思っています。その人たちの資質を上げるってどういうことなの、資質はかなり高いんじゃないですか、このセンターで出来るんですか、という風に感じます。その辺をもう少し検討した方がいいのかなと思います。その部分での工夫がみられなかったので、この点数となりました。以上です。</p>
外部評価人	<p>ありがとうございます。では次の評価人の方、お願いします。</p>
評価人リーダー	<p>はい。私は先ほど申し上げたことと同じなんですけれども、農業に対するニーズというのは非常に高いと思うんですね。市民向けのそうした農業関連について、或いは園芸も含めて、非常に関心が高くなっている。これは時代のニーズだと思うのですが、そうしたものをやはりきちっと捉えて、それに対応していこうとする積極的な姿勢が見られなかったので、ちょっと残念な感じを持っております。そして、一般市民向け貸館事業が中心になっている、ここところが一番問題じゃないかなと思います。これは、本来の目的に入っていることではないわけです。一番最初の目的である市民向けの農業とのふれあいと営農者の保護・育成、これはどちらも非常に大事な事業だと思いますので、やはりここを本来事業と捉えて力を入れていくべきではないかなと思います。貸館事業というのは、はっきり言って非常に安易といいますか、そういった印象を持っております。ただ貸せばいいわけで、積極的に何かをしなくて済むわけです。その辺、やはり本来の目的というところに戻っていただきたいなと思ひまして、少し採点が辛めですけど、13点を付けさせていただきました。以上です。</p>
外部評価人	<p>ありがとうございます。続いて次の評価人の方、お願いします。</p>
評価人リーダー	<p>はい。私の評点なんですけれども、採点項目1から順に3、2、5、4、4です。基本的には指標の設定の問題ですね、これがあるように感じました。ただ担当部局の方でも充分にご理解しておられるようなんですけれども、結局市民の農業に対する理解の深化と農業関係者に対する研修の場の提供という目的があるにもかかわらず、それに関する指標が必ずしも設定されているとは言い難かった。ですので、これは私の個人的な見解ですけども、そういった指標を新たに開発することを検討していただければと思っております。それと、他の評価人の皆さんからも「結局何がしたいのかよくわからない」というご意見があると思うんですけども、私自身としては、そもそもの出だしが国の補助金事業だったということだったかと思ひ</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
評価人リーダー	<p>ますが、それを聞いて何となく合点がいったので、お話を伺って「担当者の方もやはり苦労されているな」と感じました。そういった中でいろいろと困難もあろうかと思うんですけれども、例えば多目的ホールをどういう風に位置付けているのかとか、そういった点につきましても根本的な見直しが必要なのではないかなと感じました。担当の方のお話を伺っていますと「これはイカン」という意識が強く感じられましたので、それでも及第点ギリギリくらいかもしれませんが、これぐらいの点数となりました。以上です。</p>
外部評価人	<p>ありがとうございます。それでは次の評価人の方、お願いします。</p>
外部評価人	<p>私は、この評価シート自体については、この農業ふれあいセンターの内容がよくわかったので4点を付けました。そして、現在の課題と状況のところは「農業者の資質向上に向けた取り組みが不足し」という点がしっかり捉えられていましたので5点としました。それで結局、合計で17点になりました。それで、私の方から提案なんですけれども、センターの貸館事業には私も非常にお世話になっているんですけれども、それと農業体験という部分が一致していない状況であるのであれば、事業を分解して、本当に本気で「農とのふれあい」というところに取り組むような事業があって、それと市民が利用できる一つの施設としての運営事業と別れていた方が評価もしやすいのかなと。そうすると、その施設が果たして市民が使うところとして川越市に必要なものなのかという評価ができるでしょうし、また、農についてはどのような取組みを進めていくのかという評価ができるのかなと思います。そこがごっちゃになってしまっているのが分かりづらいなと感じました。</p> <p>あともし、このままの状態で行っていくのであれば、このパンフレットの方は完全に単なる施設の利用案内になっていますので、せっかくだったらここにもう少し「農とのふれあいを推進する事業なんだ」というのがわかるようなものを載せた方がいいのかなと思います。</p>
評価人リーダー	<p>ありがとうございます。</p> <p>では私の方からも一言申し上げますと、指標についてですけれども、数字の捉え方を途中で変えたということによって、これを見ただけではどんどんセンターの利用が減っているように見える、これは決定的な弱さなんですね。そうであれば、20年度まできちんと遡って、注釈を入れて数字を精査するというような表現をしないと、このセンターはどんどん減ってい</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
評価人リーダー	<p>るので将来必ずいらなくなる、という評価を必ず受けると思います。そういう意味では利用料金がなかなかいい感じになっているようですから、そういったのを指標にするとか、いろいろと工夫の余地があるかと思います。それから、多くの評価人から指摘された事業目的の一方のほう、つまり農業関係者向けの事業については実はあまり実施されていないということが良く分かりました。それは担当のほうもよく認識されているという点で、状況は的確に認識されているとは言えるわけですが、しかし、そこまでに留まっているというところでやはり問題があるのではないかと思います。ですので、合格点と言える 4 点は差し上げられない。3 点に留まる、ということになります。それから、実は市が行う農業振興というのは大変難しいんです。農業に関して市が何かやるということは、今は本当に難しくて、基本的な事業というのは難しいと思います。ただ、農とのふれあいだとか、それに関わる人と人との付き合いを作っていくということに特化すれば、将来かなりいい線までいくのではないかと思います。そんな意味で、もう少しセンターの事業そのものを見直してみた方がいいんじゃないか、そんな印象を持ちました。</p> <p>さて結果が出ましたが、採点結果の合計点は、100 点満点に換算して 49 点。これは C ランク「市の自己評価の妥当性はやや低い」ということになります。皆様のご意見を参考にして、いろいろ考えていただければと思います。どうもありがとうございました。</p>
事務局	<p>長時間に渡りましてご議論いただきありがとうございました。それでは、ここで一旦休憩とさせていただきます。</p> <p style="text-align: center;">－ 休 憩 －</p>
事務局	<p>5 議 事 (2) 2 事業目の外部評価 【対象事業：「河川環境整備」(建設部 河川課)】</p> <p>それでは会議の方、再開させていただきます。本日の 2 事業目でございます、建設部河川課の「河川環境整備」になります。それでは石川様、進行をお願いいたします。</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
評価人リーダー	<p>はい。それではまず、ご担当の方から自己紹介と事業概要の説明を 10 分から 15 分程度でお願いいたします。</p> <p>①事業概要の説明</p> <p>— 事業概要について説明（河川課長、河川課副課長） —</p> <p>②質疑応答・議論</p>
評価人リーダー	<p>それでは、これから質疑応答に入りたいと思います。ご質問等ありましたらお願いします。</p>
外部評価人	<p>こちらの評価シートの中でよく分からない点があったんですけども、結局この「河川環境整備」事業、特に桜づつみということになるかと思いますが、縮小していくという方向でよろしいのでしょうか。</p>
河川課副課長	<p>こちらの事業についてはほぼ完了している状況ですが、一部駐車場の整備と草刈り業務が残っておりまして、そこを整備するなどいたしまして完成に近づくわけがございますけれども、どちらにしましても植栽等の維持管理がありますので、その植栽管理業務につきましては同じような管理が継続するというので、今後検討していかなければならないと考えております。</p>
外部評価人	<p>ありがとうございます。その一方で、元が 11.3km あったということなんですか。と言いますか、全体構想区間は 11.3km という事なんですけれども、その 11.3km の構想というのはどういう風に位置付けられているのでしょうか。</p>
河川課副課長	<p>桜づつみについては、国土交通省の方と、いろいろと地元の要望を伺いながら順次、小ヶ谷の方から上寺山、山田、鯨井地区と整備を進めてまいりました。その中の 11.3km が市民の方々に一番理想となる形でして、サイクリングロードとかいろんな公園、川越水上公園とかなぐわし公園などの施設がございますので、それと一体的に桜づつみを利用いただければということで、その区間を構想区域として考えております。</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
外部評価人	<p>そうしますと、話としてはまだ消えてはいないけれども、出来るかどうかはわからないということによろしいでしょうか。</p>
河川課副課長	<p>いま国土交通省の方で「桜づつみモデル事業」という事業について、先ほどご説明申し上げましたように「かわまちづくり支援制度」という形に事業をシフトしています。それが平成 21 年から国の方でやっている事業になっております。その中でこの桜づつみモデル事業のような形で支援してもらえないかということをご検討していきたいと考えています。</p>
外部評価人	<p>わかりました、ありがとうございます。それでですね、私は河川管理についてはよくわからないので、すごく基本的なことを教えていただきたいんですけども、業務委託料について、評価シートの「事業費」の部分です。こちら、毎年変動があるようなんですけども、河川管理の場合こういった事業費については、特に業務委託料になるかと思いますが、毎年このように変動するものなんでしょうか。</p>
河川課副課長	<p>事業費といたしましては管理業務委託料になりますが、これは請負額になります。一般競争入札で落札された価格ですので、これは毎年変動する金額になります。</p>
外部評価人	<p>ありがとうございます。それから目的のところに戻らせていただきますが、この事業の一番の目的は「市民に対し憩いの場を提供する」ということが書かれているんですけども、この整備済みである 1,890m ですか、この区間がどの程度市民から認知され、憩いの場として活用されているのか。詳細データを出すのは難しいかもしれませんが、どんな感じかという程度で構いませんので、お聞かせいただけないでしょうか。</p>
河川課副課長	<p>お配りしました資料の最後のページをご覧ください。こちらは広報川越の平成 20 年 3 月 10 日号の表紙になりますが、このような形にて当時市民の方々にお示ししまして、PR いたしました。この構想区域 11. 3km におきましては、川越水上公園、或いは上戸公園といったように入間川の緑地帯がありまして、土日にはかなり市民の方も利用している状況です。また、この桜づつみの沿線沿いに埼玉県サイクリングロードが前から設けられていまして、サイクリングによる健康増進、或いはウォーキングとかジョギングをされる方がこの桜づつみで休憩をとったりなどといった形で利用さ</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
外部評価人	<p>れています。</p> <p>事業の目的のところ、市民に対する憩いの場ということなんですけれども、「市民の憩いの場」というのはどのようなイメージなのかな、と。どんなことをこの事業でやっていくのか、場を作ったことによって市民の憩いの場が完成したことになるのか。それともそれ以上に、PR をして人を集めるというところまで事業として含まれているのかという点について伺いたいと思います。</p>
河川課副課長	<p>今後は維持管理業務が主な業務となってきます。憩いの場という点では、先ほど申しましたように現在はウォーキングとかジョギング、サイクリングをされる方の休憩場所としてご利用いただいている状況です。今後も、桜つつみですので、桜の開花状況など PR していくことを考えています。</p>
外部評価人	<p>この事業が、こういった川沿いのところに関して総合的に、例えば観光に活用していくような計画を立てているとか、そういった動きというのはあるのでしょうか。</p>
河川課副課長	<p>観光につきましては、市内の城下町に多くの方が訪れるという都市になっております。そこからは離れている川ですけれども、観光者がもし自転車とかで来られた場合、観光を兼ねた憩いの場として活用できるものと考えております。</p>
外部評価人	<p>この事業以外で、そういったことを考えている別の課の事業はないということよろしいでしょうか。</p>
河川課副課長	<p>桜つつみモデル事業に似てる形の事業ということでしょうか。</p>
外部評価人	<p>川沿いを活用していくという事業についてです。</p>
河川課副課長	<p>埼玉県の県土整備事務所で、旧川越市内をぐるっと回っている新河岸川について、「川の再生事業」ということで、遊歩道や船着き場などを整備しています。ただ、これにつきましては桜をメインにしておりますので、似たような事業と言えるかなと思います。</p>
外部評価人	<p>評価シートの数字について教えていただきたいんですが、23 年度の正規</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
河川課副課長	<p>職員が 0.28 人ということですが、これは兼務をしているという意味だと思いますけれども、その方はどういった事業をやられているんですか。</p> <p>23 年度の 0.28 人の業務内容ですが、23 年度における業務といたしましては、主に桜づつみの維持管理業務委託関係をやっております、それに対する年間の業務の割合という意味になりますけれども、23 年度は例年に比べ他にもいろいろな業務を持つことになりましたので、数字としては若干減っているという形になっております。</p>
外部評価人	<p>ということは、植栽管理が必要なためにその人が専任でやっているということになるわけではないんですか。</p> <p>他の場所の植栽管理などもやっているということですよ。</p>
河川課副課長	<p>他の草刈業務などもやりながら桜づつみの管理業務委託もやっているという状況です。</p>
外部評価人	<p>ということは、この桜づつみのところを単に河川管理事業の植栽管理と統合してしまうことには何ら問題はないということですよ。</p>
河川課副課長	<p>植栽管理ということで、この管理業務委託を統合することを検討している状況です。</p>
外部評価人	<p>それでも統合できれば、この桜づつみモデル事業というのは完了すると考えてよろしいわけですか。</p>
河川課副課長	<p>一部駐車場等の整備が小さいんですけど残ってございまして、用地買収した後、毎年毎年予算要求しているんですが予算がつかない状況でして、その整備をすることによって、例えば車いすの方も利用できるようになる桜づつみもございまして、駐車場を整備することによってより一層市民の方に利用いただけるようになって考えております。その整備が完了していない状況ですので、それが終わりましたらシフトしていきたいと考えております。</p>
外部評価人	<p>ではその駐車場の整備が終わったら完了ということですか。いま概ね完了と言われているのは、そこの部分が終わったら完了という理解でよろしいでしょうか。</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
河川課長	<p>桜づつみモデル事業といたしましては、まずは国の要請に応えるような形で、堤防の強化が第一の目的でございます。市としましては、市民の方に利用していただくということも大きな目標です。設置は終わりつつありますので、さらに色々なPRをしていきたいと考えていますけれども、そういった市民利用の動静を見ながら国との協議を、堤防強化の継続なのか、市民から追加で整備する要請が出てくるのか、その辺をよく見定めてまいりたいと思っています。</p> <p>市民利用につきましては、あずまや、ベンチ、駐車場などまだ未完の部分がありますので、それらを整備して、一応は「桜づつみモデル事業」としては終了するのかなと思いますけれども、今後名称を変えて行うなど、その堤防強化と市民利用の河川環境整備をどういった手法で進めていくかということも課題なのかなと考えております。</p>
外部評価人	<p>ちょっと理解が出来ないんですけど、桜の部分と堤防の部分が主たる目的であって、駐車場というのはあくまでそれを改善するための部分ですよ。憩いの場としての有効性をより高めようというのが駐車場なんだと思うんです。そのため、本来の目的と付随的な目的ということで考えると、本来のものは終わってしまっているのに、付随的なものを継続するがために事業として別立てしてまで残す意味はないんじゃないかと。だから0.28人の人間で済んでしまってるんじゃないかと思います。それであれば、他の同じような植栽管理の事業に併合するなり、駐車場の部分についても別の事業の中に併合するなりして、本事業はいったん終了させるというのが妥当な考え方じゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。</p>
河川課長	<p>現時点では、当初の目的として計画しておりました市民利用の施設が完成することによって事業完了という認識を持っておりますので、予算の関係もありますけれども、2、3年でそういった整備ができると思いますので、その後についてはおっしゃられるように事業そのものの変化をさせていくということも考えられると思います。</p>
外部評価人	<p>私としては維持管理も適切に行われており、今後の方向性については妥当だと思うんですが、今お話ししたようなところの考え方が若干我々とは違うのかなと認識いたしております。</p>
外部評価人	<p>ちょっと誤解していたんですが、添付資料の「桜づつみ整備事業 概要」</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>の事業概要のところで「初雁橋～釘無橋間約 11.3km を対象に今後継続事業として計画的に整備を図る。」ということで、一旦完了したものがまた再スタートしていくというように理解していきまして、これはいつまで続くんだろうかと思っていたんですけども、一応収束の方向に向かっているんだということによろしいですよ。</p> <p>このシートの指標の中で、「代理成果指標を設定する」と書いてありますが、用地取得率と植栽管理率、いずれも済んでいて 100%になっていますが、これを成果指標として出されて私たちが評価するのは少し難しいように思います。評価のしようがないといえますか、それで完成しているものでしたらそれでいいんじゃないかとしか言いようがないように思うんですが、平成 23 年度まで 20 年間かけて事業目的を達成したということで、その後今までもお話しされたように残っている事業を進行していくということで、それが事業費として毎年 1,300 万円前後、業務委託料として計上されているわけですよ。これが毎年ほとんど同じような額で推移しているというのはなぜなのか教えていただきたいと思います。今までは桜を植えたりとかしてこられたわけですよ。今度は植栽の管理とか、既に作ったものを維持管理していくという部分に移行していくんだと思うんですけども、そうしますと規模が縮小していくものだと思うんですが、そういうものではないのでしょうか。その辺のところを教えていただきたいと思います。</p>
河川課長	<p>整備されております植栽の部分については約 51,000 m²ほどありまして、これを放置しておりますと草が大変ひどい状況になりますので、その草刈業務、それから桜自体の剪定、そういったものの管理費として年間約 1,300 万円を持たせていただいております。これは今後も必要な維持管理経費であると考えております。今までは新たな追加整備費として植栽そのものですとか、あずまや、それに伴う水道整備費などいろんな費用がかかってきて、それ以上に費用としてはかかっておりましたけれども、最低でも維持管理の費用として 1,300 万円ほどはかかっていくのかなと考えております。</p>
外部評価人	<p>今まではそれ以上にかかっていたというお話でしたが、それはどこの数字からわかるのでしょうか。</p>
河川課長	<p>添付資料の事業概要のところなんですけれども、総事業費として、大変大きい額なんですけど、20 年間で 1,104,607,211 円という金額がございます。これは建設費と維持管理費とがあるんですけど、建設費が約 8 割になってお</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
外部評価人	<p>ります。これが今後、あずまやとか駐車場の整備費用として維持管理費の他に追加でかかってくることになるんですけども、その分の事業費としてはそれほど大きくないと考えております。</p> <p>いえ、最初の評価シートの3「実施にかかるコストと実績」の「事業費」のところ、Aというところが1,300万、1,200万…</p>
評価人リーダー	<p>こういう風にお答えいただけますか、「木を植えた → それが終わったのがいつ」、このようにおっしゃっていただければわかるかと思えます。</p>
河川課長	<p>すみません。最初にスタートしたのが小ヶ谷地区でして、それから山田地区、これらは平成3年認定の平成4年ごろから工事を始めまして、平成8年度～9年度でこの2箇所については整備が終了し、維持管理に移行しております。上寺山につきましては、平成8年度に追加で認定をいただきました。それから鯨井地区につきましては平成18年に追加認定を受けておりまして、工事については平成19年で終わっております。</p>
外部評価人	<p>そうしますと、20年度以降はずっと維持管理費のみということですね。それで了解いたしました。それで、コストのほとんどが業務委託料で、競争入札でやられているということでしたが、事業者はどのくらい入っているんですか。</p>
河川課長	<p>事業者につきましては、植栽管理業務委託ということで制限付一般競争入札を行っておりますが、制限内容につきましては、川越市内に本店を有して、1級もしくは2級の造園施工管理技士と造園技能士の資格を有する者として入札を行っております。平成24年度につきましては19社該当いたしました。適正な競争原理が働いていると思っております。</p>
外部評価人	<p>19社が入って植栽管理を行っているということでよろしいでしょうか。</p>
河川課長	<p>いえ、19社の該当者のうち1社が請け負って行っています。</p>
外部評価人	<p>その1社というのは毎年変わっていますか。それともだいたい毎年一緒ですか。</p>
河川課担当	<p>毎年最低価格を提示したところになりますので、年によって変わります。</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
外部評価人	<p>ここ数年、請負業者は変わっているんですか。それとも何年も同じところが請け負っているんですか。</p>
河川課担当	<p>正確ではありませんが、ここ 3 年は同じ業者が落札していたかと思えます。(※正確には平成 18 年度から 7 年連続とのこと)</p>
外部評価人	<p>そうしますと、行政の役割は委託業務に関する管理・監督ということになってくるんですか。</p>
河川課長	<p>主に設計になります。何が何平米、或いは樹木が何本など、設計書を作成するのが市の役割です。</p>
外部評価人	<p>行われた業務に対する評価というのはしていらっしゃるんですか。</p>
河川課副課長	<p>業務委託ごとに、草刈りについては 6 月刈り・9 月刈りと年 2 回やっております。あとの桜の剪定、垣根の剪定などが入っております。その業務の内容に応じて担当者は設計に基づいた作業が行われているかを確認し報告しまして、中間検査・本検査を管理職が行うという形にて管理しております。つまり、管理監督者につきましても、設計書どおりに履行されているかどうかを確認するという二重の検査を行っている形です。</p>
外部評価人	<p>指標を最初に見た時に、他の評価人の皆さんもおっしゃられていたけれども、すべて 100%ということであれば何の問題もないと思っていたんですが、他の方もお聞きになられていたことで一つもう一度確認させていただきたいのが、植栽管理については他と統合する可能性もあるということによろしいでしょうか。</p>
河川課副課長	<p>管理業務ですので、他の業務委託、例えば普通河川の草刈業務委託とかがありますので、普通河川ではありませんが一級河川を占有している桜づつみにつきましても、業務委託として統合することを検討しています。</p>
外部評価人	<p>ありがとうございます。総合計画上でもともと一つ「堤防の強化」というのがありますけれども、もう一つがふれあいの場ですとかそういった場所について、先ほどから PR をしていくというお話もありましたけれども、それは河川課のお仕事として捉えられているということですか。河川課でそ</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
河川課副課長	<p>こまでやると理解してよろしいのでしょうか。</p> <p>桜つつみを管理しておりますので、その所管部署である河川課でPRも、例えば看板等で桜の開花情報をアピールしたりなどしていきたいと考えております。</p>
外部評価人	<p>ありがとうございます。それも河川課のお仕事のひとつとして捉えられているということですね。今度は指標の方についてお聞きしたいのですが、100%ということについて確認をさせていただきたいのですが、「用地取得率」というと買収計画に対して買収済みということイメージが湧くんですが、その下の「植栽管理率」については、植栽済面積に対する植栽管理面積ということになっています。これは、植栽済みのところで植栽管理が出来ない状態というか、70%、80%…と段々上がってきて100%に達したということだと思うんですが、100%に達する過程の状態というのはどういう状態なんですか。要するに、植栽が済んでいるところを管理しないというのはなぜなんですか。例えば0%ということがあるとすると、そこを放っておくということでしょうか。100%として指標を出しているということは60%の状態があつて70%の状態があつて…「私たちはこの植栽管理を頑張っているぞ」という指標だと思うんですが、例えば60%の状態、或いは0%の状態というのはどういった状態なんですか。</p>
河川課副課長	<p>まず用地取得につきましては、川越市の方で用地を取得しておりまして、その後国土交通省の方で堤防を作る段階で、その時にまだ桜が植わっていない時期がありましたので、その時は植栽管理面積がだいぶ低かったということがありました。先ほどお話しいただきましたような60%、70%という時期もございました。</p>
外部評価人	<p>今のは植栽が済んでいない時期のお話だと思うんですが、植栽が済んでいないのに管理しているというのはどういった状況なんですか。</p>
河川課副課長	<p>植栽が済んでいれば桜とかいろんなものが植わっていますので、その分について管理出来るんですけども、まだ何も植わっていない状況の時がございましたので、その時は植栽管理面積に入っていませんでした。</p>
外部評価人	<p>要するに「植栽管理率」という意味では、この指標は常に100%になるということですよ。</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
河川課担当	<p>ちょっと補足なんですけど、他市の例になってしまうんですけども、例えば川島町さんや戸田市さんなどですと、財政事情が厳しいということで、これまで全体について植栽管理を行っていたのが、予算が少なくなってしまうためにできない状況になってしまい、やらないこととしたような例もあります。それで、もしどうしても必要な状況となった場合には、その都度別予算にて対応するという形をとっているようです。ですので、これは幸い川越市では現状 100%管理できているということを表している形になっております。</p>
外部評価人	<p>もう一つお聞きしたいんですが、先ほど他の評価人さんからのご質問を聞いて気になった点なんですけれども、この指標の件について、もうすべて終了ですね？という質問に対し、そうではなくて、駐車場の整備、あずまや、ベンチの設置など市民向けとしての整備があるんだというお話でした。そうしますと、まだ完成していないということですよ。とすると、何か指標があって、それに対してここまでいきましたというように、桜づつみモデル事業としてここまでやりたいんだという何か目標とするものがあるはずで、その目標値を 100%として、例えば「今 80%で、あとこういうことが残っていますよ」という風にしないと、これではもう完全に事業が終わっているように見えてしまうと思うんですが、いかがでしょうか。</p>
河川課長	<p>おっしゃるとおりだと思っております。こちら「用地取得率」と「植栽管理率」のみ記載させていただいているんですが、あと残っているものとして「市民利用施設」というものを挙げたとしますと、それについてはまだ数字的には 100%ではございませんので、今後それも挙げさせていただければと考えております。</p>
評価人リーダー	<p>私の方からも 1 つだけお伺いします。今後の河川管理の基本的な方向性についてお聞かせください。</p>
河川課長	<p>基本的な今後の方向性についてですけれども、川越市と国土交通省とで、当時建設省でございましたが、「桜づつみ管理協定」というのを結んでおりまして、その第 4 条に「川越市長は、桜づつみの良好な環境の保全に努め、樹木、ベンチ、遊歩道等の施設管理及び草刈り、清掃等の維持行為を行うものとする」とありますので、これを厳格に守っていきたいと考えております。</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
評価人リーダー	ありがとうございます。他に質問等ある方はいらっしゃいますか。
評価人リーダー	よろしいでしょうか。それでは、評価人の皆さんにおかれましては、まずは点数の方の記入をお願いします。その後に意見シートへの記入をお願いします。
<p>③採点シート記入・評価結果発表</p>	
評価人リーダー	それでは、各評価人から一言ずつコメントをいただきたいと思います。最初の方からお願いします。
外部評価人	はい。私はちょっと甘めの採点になったかなという気がいたしますけれども、点数は採点項目1から順に5点、5点、4点、5点、5点です。私が気になった点というのは、結局この事業は続けるの？続けないの？というのがこの評価シートからは少しわかりづらかったという点です。当然別の事業との関係もあるでしょうから決めづらいのも分かるんですが、全体の総区間があって、桜つつみモデル事業区間があってという形で、これが終わるようだけれども全体では11.3kmの構想区間があるという形になっていて、ちょっと分かりづらやかなというのが気になった点です。ただ、ちなみに私は基本的に「筋が通っているか」というのを基準に考えますので、そういった点から考えますとそれほど変な感じはしなかったかなという気がします。私からは以上です。
評価人リーダー	ありがとうございます。続きまして次の評価人の方、お願いします。
外部評価人	はい。まず事業自体については特に疑問等は湧かなかったんですが、評価シートが分かりにくくて、一般の方が見てもこれはどういうことが言いたいのか、ポイントがちょっとわからない。それで、最後の「今後の方向性」のところでは新規の計画はないとか統合とか出てくるんですけども、「現在の課題と状況」のところでは新規箇所候補について考えるという話になっていまして、この辺がちょっと分かりにくいかなと思います。以上です。
評価人リーダー	ありがとうございます。続いて次の評価人の方、お願いします。

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
外部評価人	<p>はい。まず私の採点ですが、採点項目 1～3 が各 3 点、採点項目 4、5 が各 4 点の合計 17 点です。評価シートの記載内容については、最初読んだ時は全然問題ないのかなと思ったんですが、話を聞いているうちに問題点が多々あるということがわかって、ここに書いてないことが問題点としていろいろ出てきたということで、点数が低くなりました。設定指標については、私の考え方からすると、本来この事業の内容としては、「事業の概要」のところに書いてあるように用地買収、植栽工事、植栽管理、水路整備を市で行うとあって、その付属設備の整備については本来的には含まれていないんじゃないかなということで、ここに書いてあることが完了すれば、やはり本事業は完了とすべきではないか。違うのであれば、別途成果指標を設けるべきであったのではないかなと思います。それと、「現在の課題と状況」の中に、今後は新規箇所候補について環境整備等の検討を行うとありますが、「検討」というのは課題でも何でもありませんよね。まだ検討している段階で、課題かどうかというのは全然認識していないんじゃないかということになりますよね。課題であれば、「これが問題です。じゃあどうやって解決しますか？」ということになって今後の方向性が出てくるのであって、課題のところでは検討事項を挙げられても解決にはならない、ということです。今後の方向性については妥当だと思うんですが、桜というのは生き物ですから、基本的には半永久的に管理する必要があるわけです。そうしますと、私みたいな民間の人間の考え方からいくと、例えば市の「植栽管理」という事業を全て統合して、その中の一部としてこの部分の植栽管理をすべきであって、一つの植栽管理事業ごとにみんなそれぞれ予算付けをしていたら、全体を見た時にコスト高になってしまうんです。そのため、川越市の植栽管理事業をすべて一元化してトータルで予算を組んでいくというのが我々民間の普通の考えだと思うんですが、ちょっとその部分が気になったので指摘させていただきました。以上です。</p>
評価人リーダー	<p>ありがとうございます。それでは次の評価人の方、お願いします。</p>
外部評価人	<p>はい。事業の目的と事業内容が一貫しておりまして、評価シートの記載内容についてはそれなりにわかりやすかったのではないかという気がいたしました。ちなみに私の採点ですが、項目 1 から順に 4 点、3 点、5 点、5 点、5 点の合計 22 点ということで、私にしては高めの点数になりました。3 点だったのは、やはり指標のところですね。成果指標が「用地取得率」と「植栽管理率」となっていて、それが全部済みましたということで、事業はこ</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
評価人リーダー	<p>れで完全に終了しましたというように取れてしまうんですけども、これだけが事業の内容ではないんじゃないかなと思いますので、すべて100%となっているのはどうなのかなという感じがします。あとは私としては特に問題に感じた部分はありません。以上です。</p> <p>ありがとうございます。では次の評価人の方、お願いします。</p>
外部評価人	<p>はい。私は合計17点なんですが、私も最初にこのシートを見た時に、既にすべて100%となっていたので問題ないなと思っていたんですけども、お話を聞いていたら、まだこの事業は終わっていませんよということでしたので、先ほどおっしゃっていましたが、市民向けの整備という面の指標を入れる必要があるかなと思います。ただ、そうやっていくと、新たな指標が100%になったらまた新たな指標が出てきて、それが100%になったらまた次の指標と、「市民要望」のもとに次から次へと湧いてくるのかなというちょっとした不安があります。「市民に対し憩いの場を提供する」というのも河川課の仕事なのかということをお先ほど確認させていただいたわけですが、「市民向け」という名の下に次から次へと評価指標が出てくるということにならないかなという疑問がちょっと湧きましたので、指標に対して問題があって、評価もそういう方向にいつてしまうんじゃないかなという不安を少し持ち、この点数とさせていただきます。以上です。</p>
評価人リーダー	<p>ありがとうございました。</p> <p>では最後に、私からも一言申し上げます。全体的に及第点でいいと思うんですが、「設定指標とそれに基づく評価は妥当であるか」というところについては各評価人からも指摘がありましたとおり、ちょっと合格点はあげられないかなという感じですが、あとと思うんですが、担当課としてはまだこの事業にはやり残した部分があるという認識はとてもよく分かるんですが、それはもういいじゃないかと、もう区切りをつけてと、そういう発想があってもいいんじゃないかという気がします。つまり、「これとこれをやらなければこの事業は終わらない」という風にいつまでもやっていると、結局最後までずっと続いて残ることになるんですね。そういう意味で、事業の統合が出来ないので、一つ一つのコストが高くなるんです。ということで、先ほど高梨評価人からもお話がありましたように、もう少し全体としての感覚を持って、植栽の管理をやるのであればどこかの部署で一体的にまとめてやるという発想を持った方が良くと思います。ぜひ一度全庁的な視点で見つめる機会を持ってもらいたいと思います。また、特に私がいい</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
<p>評価人リーダー</p>	<p>と思ったのは「別事業に統合できないか検討する」という最後の一文です。ぜひそちらの方向で検討していただければと思います。</p> <p>では、評価人さん全員の点数を合計して 100 点満点に換算しますと、「64 点」ということとなります。これは、試行的に行った今回の評価の中では最も高い点数ということとなります。恐らく最後に書かれている「別事業に統合できないか検討する」といった一言が好印象であったのではないかなと私は勝手に思っておりますが、そういった視点で取り組んでいただければ、ますます行政の効率化が進んでいくのではないかと思います。判定としては B 判定「市の自己評価は概ね妥当である」ということとなりますので、胸を張ってお帰りいただければと思います。どうもありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、今回の事業評価は終わりとさせていただきます。</p>
<p>事務局</p>	<p>どうもありがとうございました。それでは、これもちまして、平成 24 年度第 3 回川越市事業評価外部会議を終了いたします。外部評価人の皆様、長時間にわたりましてご意見をいただきありがとうございました。また傍聴者の皆様、ご静聴いただきありがとうございました。お帰りの際は、お配りいたしましたアンケートにご回答いただきますようよろしくお願いいたします。</p> <p>では、以上で終了いたします。どうもありがとうございました。</p> <p>6 閉 会</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>